

つちのいえ

長谷川直人

「つちのいえ」では土やまわりの樹木やそのほかのいろんなものを使って(学内の廃棄物さえ)いえを建て壁を塗り自分たちで作ることを学んできました。「つち」に限らずいろんな「ものたち」を工夫して使うこと、その素材と触れ合うことにより思考が刺激され、工夫する行為の中から新しい発想が生まれてきたり見過ごしていた大切なことに気づかされたり。全ての作業が楽しい学びの時間だったと思います。

もちろん斎藤親方や久住さんをはじめ多くの方々から素晴らしい手技の奥深さを見せていただいたことも何物にも代え難い貴重な勉強の場であったと思います。このような出会いを与えていただけたことは、学生の皆さんのみならず私にとっても本当にありがたいことでした。

ものに導かれる、「もの」(素材)とゆっくりすごしていると色々なことに気づかされるというのはもちろんなんですが、なにかこちらの心の持ちようが変わるといえるのか。

とりわけ土は文明が生まれる前からヒトとともにあったわけで、ヒトが手にした最初の素材のひとつと言えるでしょう。水を与え練れば何度でも再生できるその材料は、私たちがうちすててしまった大事なことを思い出させてくれます。

陶磁器専攻教授

